

2000年度JLA中堅職員ステップアップ研修
2000年12月20日（第4回）
齋藤 文男（富士大学経済学部）
小田 光宏（青山学院大学文学部）

領域：高度かつ専門的な図書館の知識・技術の向上（区分B）

レファレンスツールの評価

1 はじめに（オリエンテーション）

・ご挨拶

講師紹介

本日のプログラムの紹介

・進行

齋藤と小田のチームティーチング（対話方式）で進行します。内容に沿っての分担は、以下のようになります。

	問題提起	回答（説明）
総論的な内容	齋藤	小田
事例的な内容	小田	齋藤
実務的な内容	小田	齋藤
理論的な内容	齋藤	小田

受講者への問いかけをできる限り行い、受講者参加型の研修を目指します。

・科目Bの3科目間の関係

「レファレンスインタビューの方法」との関係

「レファレンスクエスチョンの処理」との関係

・ねらい

参加者自身の能力を向上することが目指されます。これには、関連する知識や技術の再確認と、新しい知識と技術の獲得とが含まれます。

職場に戻って後進を指導するための認識を深めていただくことが目指されます。

2 ツール評価への誘い

・役に立っているツール

『“こいつは使える！”レファレンス・ブック あなたの10冊』（参考調査業務実務担当職員懇談会編，都立多摩図書館・東京都市町村立図書館協議会，1999）では，三多摩地区のレファレンス担当者90名を対象に調査をしています。この中から，二桁の得票数を獲得したタイトルを紹介します。また，類書の順位を指摘します。

- ・ 検討課題
特定のタイトルが、なぜ、上位に位置づけられているのでしょうか。
登場したタイトルの特徴と利用上の留意点を指摘してください。
- 3 ツール評価の目的
- ・ 構造
レファレンスコレクションを形成する際の基礎知識となることを指摘します。
質問回答サービスを行う際の、実践的知識となることを確認します。
 - ・ 応用
ツール評価が役立った実例（経験）を紹介します。
- 4 観点（評価項目）
- ・ 評価表（別紙）
評価表の実例を示し、評価項目を確認します。
 - ・ メディアによる相違
印刷メディア（レファレンスブック）の場合と、電子メディア（CD-ROM、オンラインデータベース、Webサイト）の場合とでは、評価項目が異なることを指摘します。
印刷メディアの評価は、製作・出版（編著者、出版者、出版年）、収録情報（範囲、扱い方、正確さ、利用方法）、利用方法（見出し語の選定、排列方法、検索手段、参照指示）、物理形態（印刷、造本）の諸点から行います。
電子メディアの評価は、蓄積されている情報（レコードの範囲、フィールドの多様性）、検索条件（検索時間、契約関係）、検索構造（アクセスポイント、検索機能、ユーザ支援）の諸点から行います。
印刷メディアの場合は、見出し語の「よみ（排列）」に着目してください。一方、電子メディアの場合は、検索語の「表記と記号の処理」に着目してください。
 - ・ 図書館情報学教育における技能育成
ツール評価の練習方法の一例として、「解題演習」を紹介します。
質問回答演習とツール評価との関係を検討します。
- 5 ツール評価の実際
- ・ こつ
現物に接近することの重要性を指摘します。
「とっさの一冊」を確保しておくことを提言します。
 - ・ 検討課題
各図書館では、ツールを評価する際に、どのような工夫をしていますか。
ツール評価に関して、レファレンスサービの実務未経験者（無資格者）が、まず取り組んだ方がよいことは何でしょうか。
- 6 おわりに